

北陸センター所長賞 受賞

作品名：「知ることから始めよう」



高岡市立戸出中学校

3年 奥野 結衣 さん

▽受賞のコメント

海外に行ったことがないのは大きな欠点だと思っていましたが、自分の興味があることを書きたいと思いました。地理や英語の授業時間で発展途上国について学び、日本にいると「貧しい」と感じにくいと思いました。そのため小学6年生の時にみた（作文中に出てくる）映像は衝撃的でかつショックでした。改めて「現地で学ぶこと」に勝るものはないと感じました。これからも継続して調査などをし、将来、現地で具体的に文化や人々に触れ合いながら活かしていきたいです。

▽作品本文

私は生まれてから一度も海外に行ったことがない。少し前までの私は、日本の外の話に全く興味が持てず、他の国の話なんて他人事だと考えていた。そんな私が外国に関心をもつようになったのは、小学六年生のときだ。

担任の先生が見せてくれた、発展途上国の子どもを密着取材したビデオに私は大きな衝撃を受けた。そこには当時の私と同じ、あるいは下の年齢の子どもが労働している姿が映っていた。私には信じられない光景だった。

「学校に通いたいけど、まだ幼い兄弟や、家族を守るためには、働くしかないんだ。」

とカメラに向かってどこか切なげに話す少年を見て、私は初めて自分にとって「あたりまえの日常」があたりまえでないことや「学校で勉強できること」がどれほど幸せなことかに気付いた。そして、彼らのために自分ができることはないかを考えるようになった。しかし、自分一人では具体的なアイデアが思い浮かばず、家族や友達に意見を求めたこともあったが、真剣に答えてくれる人は少なかった。自分の無力さを感じてあきらめかけていたそのとき、先生が私に

「まずは彼らの住んでいる国や生活について知ることから始めよう。今はまだ大きなアクションを起こせなくても、正しい情報を得ることで彼らに直接届くようなアクションを起こすことへのヒントになるからね。君のそのすてきな気持ちを大切にすんだよ。」

というアドバイスをくれた。それを聞いたとき、私はすごく嬉しかった。自分にも彼らのためにできることがあるということに感動しその日からさっそく調べ始めた。近所の図書館に行き、彼らの住んでいる国の人口や文化について調べたり、インターネットを使用して、発展途上国を中心に取材活動を行う国際ジャーナリストの方の記事を読んだりした。彼らについて知れば知るほど、世界と自分がつながっていくような気がした。私はそのことにやりがいを感じ、調べ始めてから三年たった今でも、情報収集を続けている。そしていつかは、現地に行って自分の目で様々なことを確かめたり、映像でしか会えなかった彼らと言葉を交わしたりしたいと考えている。日に日に大きくなる彼らへの思いを、私は絶対無駄にしたくない。

私は、発展途上国について調べることで、知識を得ることの大切さやすばらしさを学ぶことができた。だから、これを読んだあなたも、知ることから始めよう。